

授業科目名： 地理歴史科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高智彦 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)	10年以上、中学社会科・高校地歴科の教員歴		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高校地歴）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
「学位授与の方針」との関係 該当なし			
授業のテーマ及び到達目標 高等学校地理歴史科の教員を目指す者が、教材研究や学習指導案の作成、評価法など教育現場に必要な基礎的な教授法を身につける。また情報通信技術を活用した最新の授業法を学ぶ。			
授業の概要 高等学校の地理歴史科教育における実践力を養い、身に着けた実践力を有効に活用できるようにする。情報通信技術の活用とアクティブ・ラーニングを授業に導入し、実践的な教材研究や指導法を学ぶ。			
授業計画 第1回：地理歴史科教育の現状と課題について学ぶ。 第2回：地理歴史科における授業づくりのポイントについて学ぶ。 第3回：年間指導計画案の作成方法を学ぶ。 第4回：単元指導計画案・学習指導案の作成方法を学ぶ。 第5回：効果的な教材活用の方法を学ぶ。 第6回：授業における情報通信技術の活用方法を学ぶ。 第7回：学習評価の方法を学ぶ。（目標に準拠した評価、観点別評価、指導要録） 第8回：「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の方法を学ぶ。 第9回：模擬授業に向けて単元指導計画案・学習指導案を作成する。 第10回：模擬授業に向けて教材を作成する。 第11回：模擬授業を実施する。（日本史） 第12回：模擬授業を実施する。（世界史） 第13回：模擬授業を実施する。（地理） 第14回：模擬授業を実施する。（振り返りと討論） 第15回：模擬授業に対する振り返りを行い、自らの授業について今後の課題を見つける。 定期試験			
スクーリングでの学修 主に模擬授業をおこなった後、討論をおこない、模擬授業の評価できる点や課題点を検討する。自らが模擬授業をおこない、また他の模擬授業を見ることで実践的な授業づくりを学ぶ。			
テキスト 手島純編『社会科・地歴科・公民科指導法』星槎大学出版会、2022年			
参考書・参考資料等 (1) 荒井正剛『地理授業づくり入門—中学社会科での実践を基に』古今書院、2019年。 (2) 前川修一・梨子田喬・皆川雅樹編著『歴史教育「再」入門—歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019年。 (3) 南塚信吾・小谷汪之編著『歴史的に考えるとはどういうことか』ミネルヴァ書房、2019年。			
学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			